
ホットニュース(平成12年度／第36号)

●今月の業界ホットニュース／～「ASEAN諸国の交通安全推進に関するセミナー」のお知らせ～

世界銀行では、政府組織等、民間企業、NGO の3者の国際的なパートナーシップによるビジネスパートナー活動を提唱・主導しており、天然資源、水と公衆衛生、青少年の育成、道路交通安全(Global Road Safety Partnership 略称GRSP)の4つのクラスターで活動しています。これを受けて日本でも、昨年度GRSP日本委員会(委員長・越正毅日大教授)が設置され、ASEAN 諸国の交通安全活動に資するよう標記のセミナーシリーズを提案し、その第1回が東京セミナーとして今3月26～28日に開催されることとなりました。

内容はASEAN10カ国のカントリーレポートの発表と、オーストラリア、ニュージーランド、日本などの先進的な取り組み、世界銀行、アジア開発銀行、国際協力事業団などの取り組みの紹介、およびワークショップ、パネルディスカッションで構成されています。

弊社では、この東京セミナー開催事務局のお手伝いをしてきましたが、会場にはまだ余裕があるようなので、ご関心をお持ちの方は弊社までご連絡ください。

記

- ・ ASEAN諸国の交通安全推進に関するセミナーシリーズ

～ 第1回東京セミナー

- ・ 日時: 2001年3月26日～28日
- ・ 会場: JICA国際協力総合研究所(新宿区市谷本村町)
- ・ 参加費無料(但し事前に登録が必要です)

(代表取締役 堀田紘之)

●中目黒駅周辺交通環境整備の必要性について

経営破綻した千代田生命の本社跡地(目黒区上目黒2丁目)への目黒区役所新庁舎移転が決まった。現庁舎(1936年竣工)は、老朽化及び狭隘化により各課が分散しており、必ずしも使い勝手がよいとはいえない。

また、最寄り駅(東急東横線祐天寺駅(急行は通過))から徒歩約15分、周辺道路も幅員10m程度であり、アクセス性についても十分とはいえない。新庁舎計画地は、中目黒駅(東急東横線・営団地下鉄日比谷線)、山手通りと駒沢通りとの交差点からも近く、各方面からのアクセス性は現在地と比べて格段と向上する。

一方、中目黒駅周辺では山手通りを挟み、上目黒1・2丁目地区市街地再開発事業が進行中である。この2つの事業だけでも中目黒駅周辺は、現在以上に賑わいのある街となることが予想され、目黒区の渋谷方面への玄関口としてだけでなく、文字通り「目黒区の中心」としての活性化が期待される。

しかし、現在計画されている中目黒駅周辺の交通計画は、上記市街地再開発事業のみを前提としており、必ずしも庁舎移転による増加交通量を処理するには十分とはいえない。例えば、ピーク時間帯における中目黒駅ホームの混雑は激しく、現在以上に乗降客が増加すれば大変危険な状況になることは容易に想像がつく。

今後、中目黒駅周辺が魅力ある街として発展していくには、居住者及び従業者のみならず、来街者にとっても安全で快適な交通環境整備を進めていくことが必要不可欠である。

(第五計画室 野澤 雅一)

●ITS技術の進展とロードプライシング

東京都は環境負荷、交通混雑軽減を目的に、特定区域への入域車両へ課金するロードプライシング(以下RPと表記)を検討している。

施策実現には、自動車の停車なしに課金できるシステムが必要であり、都RP検討委員会では、当面の候補としてカメラでナンバーを撮影し請求するシステム等をあげている。JH等で実験中のETCも有効である

が、自動車側に車載器が必要であり、車載器普及が進まないと適用することは難しい。

一方でITSの進展により、VICS等の交通情報提供、自動運転等のサービスが導入・開発されている。ITS技術は、RPで必要としている位置認識技術、通信技術を含むものも多い。将来、位置認識・通信技術、車載器普及が進むと、RPもITSのアプリケーションの一つとしてより高度に実施することが可能になるだろう。また、様々なITS情報を基に、リアルタイムに自動車交通を誘導する等のRP施策内容の進化も考えられる。

(第三計画室 内山 征)

●青年海外協力隊・派遣前訓練レポートvol.2

～行き先の見えない川の真ん中～

訓練に入って1ヶ月が過ぎました。語学の方は中間テストも終わり、ついにTarget Language Daysが始まっています。これは、朝から晩まで自分の学習言語(もしくは英語)以外が使用禁止になるもので、ほとんどの人が1ヶ月程度の授業を初めて受けたという状況の中、しどろもどろの会話が展開されています。ちなみに私はフランス語を学習していますが、まだ単語がすぐ出てこないため、もどかしい思いをしています。

さて、ここで簡単に1日のスケジュールを紹介します。まずは朝6:25から全員のラジオ体操で1日が始まり、朝食後の8:45から語学の授業が始まります。50分のクラスが午前3コマ、午後2コマです。その後は、日により講義や諸行事のオリエンテーションだったり、予防注射(“火曜日は注射の日”)だったりします。講義は17:00まで、夕食後は自主学習で語学や講義のレポート等をやり、23:00には消灯です。これが月曜～金曜まで、土曜は語学のみで15:00頃終了し、日曜が休日です。他に訓練の一環として、スポーツ大会、所外活動、ウォークラリー、語学交流会等の諸行事があります。所外活動は、近隣の幼稚園や障害者施設、農家等へボランティアに出掛けるもので、語学交流会は各国の研修生等を招待して懇談会を行うものです。

今はちょうど、訓練の折り返し地点にいるのですが、これまでの道程は長く、この先もまだまだ長いものに感じられます。それだけ密度の濃い時間が流れている訳ですが、これからどんな所に流れ着くのか不安でもあり楽しみでもある毎日です。

さあ、あと半分。気合入れ直して、頑張るぞ！

---モロッコ・プチ情報 ~その2~ イムーゼル市編-----

※イムーゼルは私の赴任先です。

位置:フェズ市から南に約40km

人口:約12,000人

民族:ほとんどがベルベル人

概要:アトラス山脈の中腹に位置する避暑地(軽井沢のようなイメージ)。

夏期には避暑客で人口が3~4倍に膨れ上がるが、ほとんどが別荘住まいのため地元との交流があまりない。

(第三計画室 酒井 夕子)

アルメックホットニュース(平成13年3月15日発行)

////////////////////